

日本史(22) 「藤原氏北家の発展」

○今回のポイント

9世紀の半ば、藤原氏北家の冬嗣とその子孫たちが台頭してくる。
天皇家との外戚関係を結び、他の有力氏族を排斥して、権力の集中を進めた。

(1)藤原北家と天皇家

○9世紀半ばまでの政治…桓武・嵯峨天皇が貴族たちをおさえて強い権力を握り、国政指導。

⇒ しかし・・・藤原氏、とくに[1. 北家]は天皇家との結びつきを強めて勢力を伸ばす。

(2)藤原氏の他氏排斥

①[2. 蔵人頭]となり勢力拡大 → [3. 藤原冬嗣]が、平城太上天皇の乱の際、嵯峨天皇から厚い信任を得て就任。天皇家と姻戚関係を結ぶ。

②[4. 承和の変] (ジョウワノヘン)…842年、藤原良房の陰謀。藤原氏の中での北家の優位を確立する一方で、[5. 伴健岑]・[6. 橘逸勢]ら諸氏族の勢力を退けた。

藤原良房が一族の順子(ジュンシ)の息子である道康(ミチカズ)親王を皇太子にするために行った陰謀。皇太子：恒貞(ツネサダ)親王は廃され、支持者の伴健岑・橘逸勢は隠岐・伊豆に流された。密告者は在原業平の父：阿保(アホリ)親王。

(3)藤原北家の勢力拡大

■良房の時代

良房は臣下で初の摂政！

・858 [7. 清和天皇]9歳で即位。良房は事実上摂政となる。

・866 [8. 応天門の変] → 良房が正式に摂政となる。伴善男、紀夏井配流。

大納言伴善男が左大臣源信(ミナモトノノブ)の失脚を狙って応天門に放火したが発覚して伊豆に配流となった事件。紀夏井も縁座して土佐に流された。事件の処理にあたった良房は有能な他氏を排斥することに成功。

■[9. 基経]の時代

・884 はじめての[10. 関白]…基経、[11. 陽成天皇]を譲位させて[12. 光孝天皇]を即位させる。光孝天皇はこれに報いるため基経を実質上の関白とする。

・887 [13. 宇多天皇]即位

☆[14. 阿衡の紛議]

887年、宇多天皇が即位にあたって出した勅書には基経を「阿衡」に任じるとしていたが、「阿衡は名ばかりで実職が伴っていない」として基経は政治をみなくなり、起草者：[15. 橘広相] (チバノヒロミ)を咎めた。論争に発展したが翌888年、宇多が勅書の非を認め、広相を罰して収拾した。

☆関白としての政治的地位を確立。

・ 関白とは天皇と太政官とのあいだの文書などのやり取りすべてに「16. 関り(あずかり)白す(も

うす)」(関与する)という意味。

(4)菅原道真の重用と追放

■891 基経死去

↓

■[17. 寛平の治]…[18. 宇多天皇]は藤原氏を外戚としなかったため、摂政・関白を置かず親政を開始。学者であった菅原道真を重用し、藤原氏の勢力を抑えようとした。

↓

■897 [19. 醍醐天皇]即位

↓

■901 [20. 昌泰の変] → 菅原道真、太宰権帥に左遷される。

左大臣：[21. 藤原時平]の陰謀。宇多天皇のもう一人の息子であった齊世(トキ)親王は菅原道真の娘婿であった。時平は道真を失脚させるため、齊世親王が即位しようとしていると醍醐天皇に讒言し、道真を大宰府に左遷させた。

(5)不動となる藤原北家の勢力

■897～930 醍醐天皇の治世（左大臣：藤原時平） → のちに「22. 延喜の治」と呼ばれる

901	昌泰の変 → [23. 菅原道真]左遷 『24. 日本三代実録』編集（最後の六国史）
902	[25. 延喜の荘園整理令]（最初の荘園整理令） → 最後となる班田を実施
905	紀貫之『26. 古今和歌集』編集（最初の勅撰和歌集）
907	新銭「27. 延喜通宝」铸造 『28. 延喜格』の完成（最後の格）
914	三善清行[29. 意見封事十二箇条] → 中央政府改革・経費節減・地方政治改革等
927	『30. 延喜式』の完成（最後の式）

■930～946 [31. 朱雀天皇]の治世（摂政・関白：[32. 藤原忠平]）

☆[33. 承平・天慶の乱]勃発！

→935～941年の間、[34. 平将門]と[35. 藤原純友]らの反乱により政治が不安定。

■946～967 [36. 村上天皇]の治世(左大臣：藤原実頼) →後に「37. 天曆の治」と呼ばれる

951	『38. 後撰和歌集』編集
957	菅原文時 意見封事三箇条
958	新銭「39. 乾元大宝」铸造（最後の皇朝十二銭）

■967～969 [40. 冷泉天皇]の治世（関白：[41. 藤原実頼]）

☆969 [42. 安和の変] → [43. 源高明]左遷。

藤原氏が源高明を失脚させた事件。「源高明が娘婿である為平(タムラ)親王を擁立して、皇太子；守平(モリヒラ)親王(後の円融天皇)の廃立を図っている」と[44. 源満仲] (ミツナ)が密告。

藤原氏北家の勢力は不動のものとなり、その後は、ほとんどつねに、摂政・関白がおかれ、その地位には藤原忠平の子孫がつくのが例となった。